

第 42 号

発行者
青少年育成秋田市民会議
事務局
秋田市子ども未来センター内
少年指導センター

〒010-8506
秋田市東通仲町4番1号
TEL 018-884-3869
FAX 018-887-5335

青少年やどめ



街頭啓発活動
11月23日 秋田駅ぽぽろード



会員研修会
12月16日 秋田市センタース

「震災…子どもたちの救援対応は」



青少年育成秋田市民会議

会長 遠田 順夫

2024年元日、能登半島は震度7の地震に見舞われ、家屋の倒壊、浸水、火災延焼等広範囲にわたる大惨事に見舞われた。死者・行方不明者が日毎に増加している現状にある。まずは心からお悔み・お見舞いを申し上げます。

日本は二酸化炭素の排出量が多い国です。しかし、日本のGX（グリーン・トランスフォーメーション）では、「原発推進と石炭火力の延命策」と批判されておりOEC D（経済協力開発機構）の求める気候変動対策にはほど遠い状況のようです。

海底活断層地帯にある日本は東日本大震災の教訓から、即対応できる体制、対応の必要性を打ち合わせていると感ぜられていくが、しかし現場の被災者の声は、食糧・給水・風呂・トイレ・衛生環境等その対応は批判的のようである。

世界各地からの警鐘として、アフリカからアジアにかけての広範囲の干ばつ、北米のハリケーンが多発、全世界的な地震・森林火災、日本列島の地震・津波、集中豪雨・大洪水、観測史上最高の猛暑など。全世界の人々は、被災が身近に迫っていることを感じ取り、若者たちの行動・未来を守り続けなければならぬと思っている。

特に被災した子どもたちの生活・就学支援、孤独化させない救援対策などは、どの程度なのか、対応できているのか、心が痛むところである。

（注）〈F・F・F〉…
Fridays for future

世界の若者たちが行動している〈F・F・F〉を思い起こした。未来に向けた気象危機打開行動である。

（未来のための金曜日）
「気象危機打開に向け行動する、世界の若者団体」です。

わたしの主張2023秋田県大会

「わたしの主張2023」秋田県大会が、令和5年9月7日、秋田市立泉中学校で開催され、秋田市からは3名が発表し、優秀賞、優良賞を受賞しました。
 発表者10名（県北3名、県央3名、県南3名、実施校推薦1名）、教職員、来賓、審査委員、関係者 計730名が参加。

優秀賞

分かり合える社会へ

秋田大学教育文化学部附属中学校

三年 高橋七叶

想像してみてください。もしも、あなた以外の人が目を三つ持っていたとして、あなたが今と同じように目が二つだったら、あなたはそれをハンディキャップだと感じますか。

おそらく、多くの方は三つじゃなくない、と思うのではないのでしょうか。なぜなら今の私たちにとって目が二つあることがいつもの状態のように感じているからです。でも周りの人から「目が二つで大変だね」と言われたらどう思うでしょうか。これも多くの人が「別に大変じゃないよ」と思うのではないのでしょうか。

私たちが障害のある方たちへ持つ思いは、障害のある方にとって、実は的外れなものかもしれません。あなたが「体が不自由で大変ですね」と配慮のつもりでかけた言葉に、

彼らはきつと「別に大変じゃないよ」と答えるはずで。

Bリーグプロバスケット選手の津屋一球選手とお話する機会がありました。彼は両耳難聴で、補聴器をつけながら健常者と一緒にプロ選手として活躍しています。津屋選手は「難聴は特別なことではありません。」と言っていました。英語の教科書にも、車椅子テニスの国枝慎吾選手のこんな言葉がありました。「車椅子なのにすごいですね」と言われることがストレスです。僕はただみんなと同じようにテニスをしているだけです」と。

彼ら自身に自分が障害者という意識はありません。実は彼らを障害者に行っているのは、私たち自身なのではないのでしょうか。私の妹は生まれた時、右手に六本左手に七本の指がありました。ある人がそんな妹を見て「気持ち悪い」と言いました。現在は手術をして五本の指となりましたが、それでも私にはあの偏見の声が忘れられませんが、自分と違っていたら気持ち悪いでしょうか。妹はみなさんと何も変わらず笑ったり泣いたりしながら懸命に毎日を生きています。私たちが何も変わりがありません。

ただ不自由なことが私たちより少し多いだけなのです。

妹を偏見の目で見てほしくないという思いと同時に、言われたくない言葉があります。それは「かわいそう」という言葉です。「かわいそう」という言葉は同情しているようで、実は突き放しているように感じます。優しい顔して差別している。私にはそんな気がしてしまうのです。

たとえば、計算が苦手な人はかわいそうですか。猫舌で熱いものが食べられない人はかわいそうですか。逆上がりが出来なかったらかわいそうですか。

いいえ、誰一人としてかわいそうな人などいません。それぞれが持った個性なのです。たとえ障害者と呼ばれていたとしても、彼らには十分にいろんなことが出来るのです。勝手に不自由と思われているだけで、彼らにとっては不自由でもなんでもありません。なぜならそれは彼らにとって日常であり、スタンダードな状況なのです。だから、必要以上に心配したり、気を使ったりすることは、かえって差別的に感じられるのです。

「かわいそう」なんてやめましょう。彼らに足りないところを、みんなではんの少し補える距離感を社会全体で作ってあげたいのです。特別な感覚で彼らと接する必要はありません。一つの個性として受け入れればいいのです。自分の個性を誰かに受け入れてもらうように。

今の考えを少し変えて、誰でもあなたの心に入っていけるようなスペースを与えてあげてください。みんなで心のバリアフリーを持ちましょう。

優良賞 共に生きる

秋田市立泉中学校

三年 目黒ことみ

ラグビーと聞くと、痛くて怖いスポーツというイメージをもつ人が多いでしょう。確かに、自分より体格が大きい選手にぶつかっていくことには勇気が必要です。時に恐怖から足がすくむこともあります。そんな時、私は決まって、仲間のことを考えるようにしています。苦楽を共にし、一緒に汗を流してきた仲間のことを。こうすることで、それまでのためらいが一瞬で消え、背中が羽が生えたかのように体が軽くなります。自分がここで止めることができれば、一緒にライフエンスをしている仲間が楽になる。そう考えれば、このくらい痛くもかゆくもない、と思えるようになります。なんだってできる、何度だって立ち上がれる。「仲間を思いやる心」はラグビーをするものにとって、困難に立ち向かっていくための原動力であり、最大の武器でもあるのです。

私がラグビーを始めたのは、小学校5年生の時です。県内に女子のラグビーチームはなかったので、男子主体のクラブチームに入ることにしました。今でこそ、パスやキックなどの動作が自然にできるようになりましたが、最初は失敗の連続でした。「ああ、またミスをしてしまった。」練習後、一人で落ち込んでみると、何人かのチームメイトが私に声をかけてくれました。「パスをする時は、片方の手をボールに添えると投げやすいよ。」「ミスをして大丈夫。」

俺らカバールするから。」てつきり自分のミスを咎められると思っていた私には、仲間を思いやる彼らの姿がハリウッド映画の主人公のように輝いて見えました。その時は、人を思いやることの大切さを、身をもって実感したのです。

ラグビーには「One for All All for One」という言葉があります。「One for All」は「一人はみんなのために」、「All for One」は「みんなは一人のために」という意味です。だれかがミスをしてしまつたら、全員でそれをカバーする。一人一人が仲間のため、チームの勝利のために体を張ってプレーする。この精神こそ、ラグビーというスポーツの真髄であり本当の面白さなのです。そして、これは人と人が関わり合って生きていく上で、一番大切なことだと私は思います。

皆さんは、2019年に行われたラグビーワールドカップでの日本代表の快進撃を覚えているでしょうか。格上の強豪国を次々に打ち破り、日本代表は史上初のベスト8という快挙を成し遂げ、世界中を驚かせました。特に、アイルランド戦で、世界最強と謳われるアイルランド代表のスクラムに押し勝ったシーンは、今思い出しても鳥肌が立つくらい感動的でした。一人一人の、仲間を思いやる気持ちの一つになった時、それが大きな力になることを教えてくれるようなプレーでした。また、スクラムで押し勝つた後に、チームの全員が一緒になって喜ぶ姿を見て、一人の成功がみんなの成功になり、それが最終的にチームの勝利に繋がっていくことにも気づかされました。スポーツ選手なら、得点を取ってチームの勝利に貢献するのが当たり前と思っている人がいるかもしれませんが、しか

し、ラグビーはポジションによって一人一人役割が大きく異なるスポーツで、中には自ら得点を狙いに行けるチャンスが少ない選手もいます。しかし、それを不満に思う人は一人もいません。一人一人が自分のプレーに責任と誇りをもち、自分の役割を全うしているからだと思えます。一人一人が自分の強みを生かし、全力を尽くした時にチームの結束はさらに強まります。決して誰かに頼りきりではいけません。みんなのために、自分は何ができるかということを考えて時に、初めて選手としても、一人の人としても成長できるのではないのでしょうか。互いにベストを尽くし、みんなで大きなスクラムを組んだ時、私たちに超えられない壁はありません。だからこそ、人が人が協力し合って共に生きていくことには大きな価値があるのだと、私は思います。

優良賞

AIと生きる

秋田市立飯島中学校

三年 佐々木 凜音

「神様を作つてほしい。」ある資産家の依頼を受けた科学者は、古今東西の神様にまつわる情報を、高性能のコンピュータにインプットしていった。神の情報で満たされたコンピュータは、その佇まいがどんどん神々しくなつていき、最後は空の彼方へと消えてしまった。大枚を叩いて神の制作を依頼した資産家は、科学者と神様を口汚く罵つた。

すると天からの雷一閃、資産家は神という名のコンピュータの決断により命を失つてしまった。

これは、SF作家星新一さんの寓話です。この物語の怖いところは、偏った情報で満たされたコンピュータが神となり、蓄積された情報に従い躊躇なく人を裁くところです。

私はこの物語をきっかけにAIに関する記事に目を向けるようになりました。その中で最も驚いたニュースは、今ある職の約半数がAIに代替えされるというものです。スーパーやコンビニの店員、公共交通機関の運転手といった、今まで人と人とのコミュニケーションが必要とされていた職もAIに代替えされ、人間のコミュニケーション能力の低下が予測されています。そのため会話力などのスキルを身に付けていくことが必要となります。

ここからは、人間に近い機能を持つ汎用型AIを念頭に置き、AIと人間の関係についてお話しいたします。

AIの得意分野はデータの蓄積と解析、そしてパターン認識です。人間にとつては、少し面倒に感じる作業ですが、AIは間違えることなく遂行します。それゆえ、将棋や囲碁といった天文学的な数値となる組み合わせも難なく計算し、最良の一手を瞬時に選択します。これは人間の能力を大きく凌ぐ一例です。

このようにAIは人間の単純なミス、いわゆるヒューマンエラーを起こすことはありません。そのためAIは環境問題解決の救世主にもなり得るのです。異常気象や絶滅危惧種の増加が現在日本でも問題となつていますが全ての情報をAIが整理し分析することで解決への手がかりがみつけれられるのでは、と言われていています。地球の未来を守る

るためにも、AIの活用が大切になるでしょう。

一方で、現代のAIにも苦手としている分野があります。それは想像力です。私たちは相手の表情や口調、時には話の間から相手の気持ちを推測します。

これはAIの機能として、現在はいっていません。しかし、AIが人間の感情や感性にたどりつく日もそう遠くはないでしょう。

さて、AIによって将来の人間社会はどのように変化していくのでしょうか。私は、人間がAIをコントロールする「共存社会」と人間が全ての判断をAIに委ね、想像力を失っていく「依存社会」、2つの道があると考えます。生活にゆとりができる前者は、自分の時間や仲間との時間が増え、比較的良い暮らしとなるでしょう。一方で欲と楽を追求した後者は、生活の楽を手に入れることができますが、想像力や判断力を失い、活気の無い暮らしとなるでしょう。

全てをAIに委ねた依存社会にしないためには、AIについて学び適切に使いこなす能力と、技術を身につけていくことが求められます。また、「AIと神」ではありません。AIも完璧ではないのです。そのため、AIと人間の役割分担が大切となります。

「AIと生きる」技術の進化を学びその変化に対応していきAIと生きるということが私たち世代の責務であると思えます。



「梵天奉納を終えて」

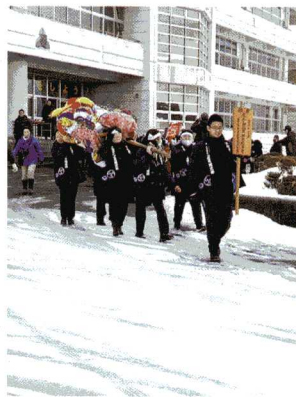
梵天奉納委員会 会長
青少年育成秋田市民会議 顧問
鎌田 博美

平成16年1月17日に「青少年の健全育成・学業成就・絆づくり」そして、地域の伝統継承の観点から、大人と子どもが一緒に参加できる梵天祭りに、初めて参加以来、21年間（コロナにより2回中止）で、市民会議として19回目、下北手小学校18回目、下北手中学校3回目の奉納で最後となったこの淋しさは、拭えきれません。残念でなりません。

でも、今回の奉納で児童生徒の笑顔と自信に満ちた元気な姿を目のあたりにし、我々大人が逆に児童生徒から元気をもらいました。

この21年間、児童生徒に事故や怪我など一度もなかったことに、ほっと胸をなでおろしているところで。また、市民会議と教職員、保護者そして地域の方々と一緒に、梵天奉納で共有できたことは、私たちの財産となりました。ほんとうにありがとうございました。

10年、20年後、児童生徒等がこの「梵天祭り」を思い出してもらえれば幸いに存じます。最後に「やなぎっこ」たちの未来に「夢と希望と幸せ」あれとお祈りいたします。



街頭啓発報告

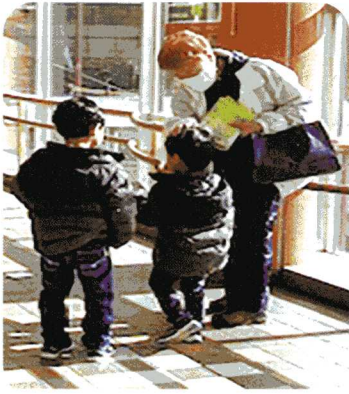
「カとカ」!!

青少年育成秋田市民会議

常任委員 石川 ひとみ

子ども家庭庁推進の「こどもまんなか月間」の一環として、青少年育成秋田市民会議会員10名で11月23日、啓発行動を行いました。秋田駅西口ポポロードに10時30分集合し、「のぼり旗」を立てたり、手渡ししやすいようにチラシを折って準備し、いよいよ配布です。

通行する人たちの中で受け取って下さる人には感謝、無視していく人にはちよつと悲しさを感じ、一喜一憂しながらそれでも350組用意したチラシとポケットティッシュは30分ほどでさばくことが出来ました。



これは多くの会員が参加した「結束力」の賜物です。

一方、まだまだ「家族ふれあいサンサンデー」などの趣旨は周知されておらず、伝えていくための活動は大事です。「継続は力なり」、今後も頑張りましょう。



表彰受賞者感想

「心から感謝 いたします」

青少年育成秋田市民会議

会長 遠田 順夫

青少年健全育成秋田県大会において、功労者表彰を受賞いたしました。永年支えて下さった方々、関係各位の皆様我心から感謝いたします。

私の「一から始める」というモットーは、「失敗は取り戻せる、何度でも」と子ども時代の、今は亡き親たちの対「悪ガキ教育」にあったと思っている。

LINE・SNSという時代だが、私は「時間はある。急ぐことはない」と今でも反論部分がある。

若者たちの海外引率10年、わんぱくClub 28年、PTA10年、町内会10年、守り隊8年、市民会議などの経験が血肉となり、己を鼓舞し、支えてくれたものと感謝している。皆さんありがとうございます。(合掌)



今回の広告掲載につきましては、地域の皆様から、たくさんのご協力ありがとうございました。心から感謝申し上げます。

臨濟宗妙心寺派
日徳山 昌東院

住職 辻 匡人
(Masato Tsuji)

010-0132 秋田市新庄小又字行人沢2
TEL : 018-870-2525
FAX : 018-870-2565
携帯電話 : 090-3125-3746
Shotouin@theia.ocn.ne.jp



在宅介護

やさしい手

～やさしい手届けたい～

ケアプラン作成 ホームヘルプサービス

やさしい手秋田 市立病院西口バス停向い
TEL 864-1113

ホームヘルパー募集中! <http://www.8341te.com>



青少年育成 秋田市民会議研修会

青少年育成秋田市民会議
副会長 伊藤 妙子

令和5年12月16日(土)午後2時～3時30分、秋田市役所セントアース洋室4にて会員29名参加のもと開催されました。

昌東院副住職 辻妙月氏を講師に迎え、世代を通して見るジェネレーションギャップをテーマに講話を頂きました。

最初にアイスブレイク(緊張した固い空気や心を氷に例えて、それを壊すコミュニケーションの方法)をして下さり会場は和やかな雰囲気になりました。その中で



SNSや仮想現実への親和性が高い若い世代の考え方・世界の捉え方を我々中高年世代が理解するための手がかりについて、解りやすく説明して下さいました。若い三十代の辻先生から、実例を交え、今現実にかけている世代間のギャップを教えていただき本当に有難い研修会でした。



◆お知らせ◆

◆令和6年度総会開催について
令和6年5月11日(土)
午後3時～4時 協働大町ビル
総会后、情報交換会を予定しております。

参加料 四、五〇〇円

◆J R秋田駅周辺 クリーンアップ活動報告◆

一回目 令和5年7月22日(土)
雨天により中止
二回目 令和5年10月7日(土)
8名参加



謝意(赤い羽根共同募金)

この会報は、秋田市赤い羽根共同募金会からの補助の一部で発行しております。
たくさんのご協力に心から感謝申し上げます。

『地域のおじさん、おばさん運動』

ただいま、会員募集しております

私たちは、次代を担う「秋田の子どもたち」の健全育成を図るために、子どもたちにとって、一番身近な地域の市民の一人一人が参加して「地域の子どもは、地域で守り育てる」活動を展開しております。

また、「地域のおじさん、おばさん運動」もあわせて展開しております。

～さあ、はじめよう。できることから。あなたから～

青少年に関心のあります市民の皆さま、ぜひ「この運動」をご理解いただきご入会くださいますようお願い申し上げます。



お問い合わせ：事務局 秋田市子ども未来センター内 少年指導センター
〒010-8506 秋田拠点センター アルヴェ5F
TEL 018-884-3869 FAX 018-887-5335

青少年育成秋田市民会議
会長 遠田 順夫

編集後記

1月17日、秋田市立下北手小・中学校の梵天が無事に奉納されました。これはひとえに東部地区の皆様のご尽力の賜物と心より敬意と感謝を申し上げます。